いずみさの教育NOW なう

問合先
学校教育課

ともに学び、ともに育つ ～医療的ケア児～

医療的ケア児（以下、医ケア児）とは、生きるために日常的な医療的ケアを必要とする子どものことです。医ケア児は年々増加傾向にあり、在宅医療的ケア児の推計人数は、2005年は約1万人と発表されていましたが、2019年には約2万人と発表され、14年間でおよそ2倍になりました。このような状況を国も社会的な課題であると捉え、医ケア児やその家族への支援を拡充するため、2021年6月には「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律（医療的ケア児支援法）」が成立し、同年9月より施行されることになりました。

医療的ケアの種類や程度は様々です。具体的には、「人工呼吸器による呼吸管理」「痰などの吸引」「胃ろうによる経管栄養」「導尿」「酸素療法の管理」などがあり、主治医が医療的ケアの内容を示した「指示書」に基づき、看護師がケアを実施します。

学校への受け入れにあたっては、就学前から医ケア児の家族などから相談を受け、状況を把握するとともに、看護師の配置について検討を行っています。日常的に必要な医療的ケアを実施できる体制を整えることが、医ケア児の受け入れには欠かせません。

医ケア児が毎日学校に通うことができれば、日々の生活習慣が安定し、医療的ケアを行う看護師や教職員との関係ができていきます。その中で、自身の体と向き合い、自分の意思を伝える力が育まれていきます。また、多くの仲間とともに学び、様々な経験を重ねていくことは、自己肯定感を高めていくことにもつながります。医ケア児の在籍する学校では、安心・安全な学校生活を保障できるよう、医療的ケアに関する教職員研修や主治医との情報共有、非常時の対応訓練などを実施して校内体制を整えています。

泉佐野市の小・中学校では、すべての子どもたちが「ともに学び、ともに育つ」教育を基本とし、共生社会の実現に向け、交流や共同学習の機会を積極的に設けることを支援教育の方針として掲げており、これからも支援教育の充実に努めていきます。

学校園紹介

平常が戻ってきた学校生活 ～第一小学校～

新型コロナウイルス感染症が昨年5月に5類に移行され、3年間実施できなかった行事などが普段通りに行えるようになってきました。

地域のみなさんに登下校の見守り活動や農業体験など色々な面で支えられています。2年生は、昨年5月にサツマイモの植え付けをし、10月には大きく育ったサツマイモを収穫しました。また、今年の1月末には、3年生がジャガイモの植え付けをしました。4年生になった6月ごろには大きく育ったジャガイモを収穫する予定です。

そして、昨年12月には、3年ぶりに全校児童が体育館に集まり観劇会も再開できました。徐々に平常の学校生活が戻ってきました。

今年度は、新入生50人を迎え、全校児童は301人です。子どもたちの大きなあいさつの声が地域や学校に響く第一小学校です。

海風に あいさつひびく 第一小

セカンドステップに取り組む ～感情のコントロールができるように～ ～中央小学校～

「セカンドステップ」プログラムは、米国ワシントン州にあるNPO法人によって、「子どもが加害者にならないためのプログラム」として開発されました。「キレない子どもを育てよう」を合言葉に、子どもが幼児期に集団の中での社会的スキルを身につけ、様々な場面で自分の感情を言葉で表現し、対人関係や問題を解決する能力と怒りや衝動をコントロールできるようレッスンが計画されています。

セカンドステップの授業は、①自分と相手の気持ちについて、②問題をどのように解決すればよいか、③怒りを感じたときにどうすればよいか、を学んでいきます。中央小学校では3年前から低学年と支援学級の子どもたちに授業を行ってきました。子どもたちの成長の中で、他者とのコミュニケーションを上手にできる力を育てたり、怒った感情をそのまま相手にぶつけてけんかになる前に一呼吸おく力を身に着けてほしいからです。

今まででその効果を実感したことは何度もあります。以前の話ですが、ガラスを割ってしまったとき、けんかをしたとき、イライラしたときに、このステップを思い出させてどうしたらよかったかふりかえることができた子どもがいました。感情が抑えられず、人に当たってしまいそうな時に、その場から離れて、ひとりで落ち着く子どももいました。今後もこの取組は続けていきたいと考えています。